

統 計

図書室の運営と利用の推移

Administration and Utilization of the Library

有 田 由美子 田 村 みゆき

Yumiko ARITA, Miyuki TAMURA

はじめに

新潟県立がんセンター新潟病院は今年2011年に50周年を迎えた。図書室も創立時に設置され、長い歴史がある。1976年には、当院を含めて県内15ある県立病院の中央図書室となった。また、院内では患者図書サービスが開始され、病院図書室担当者もその一端を担っている。それぞれの設立の経緯、現在の運営と業務統計を報告する。

I 新潟県立がんセンター新潟病院図書室

1 設 立

当院は1950年に「県立新潟病院」として創設され、内科・性病科の2診療科20床で開院した。県は全国にさきがけて「ガン対策推進委員会」を設置して検討した結果、1961年1月からがんの診断と治療を目的とした総合センターを設置することになり、「県立ガンセンター新潟病院」として名称を変更し、総合病院の承認をうけた。名称中の「ガン」がひらがなの「がん」に改まったのは1987年、新築移転と同時の5月からである。

1948年に制定された医療法では、第二十二條で総合病院が有する施設の一項に病院図書室の設置が定められており、当院でも総合病院承認後間もなく開設された。現在医療法は改正され、「総合病院」から「地域医療支援病院」となっている。

2 運 営

図書原簿は1962年からの記載があり、単行書は最初から米国国立医学図書館分類法を用いて分類してある。この分類法は部位・器官ごとにアルファベットと数字で表記するもので、公共図書館で採用されている日本十進分類法のような全ての主題を分類するものと異なり、医学および関連主題に特化している。

担当者も当初から配置されており、設立時から診

療と研究を支える取り組みをしていた。現在の担当者は司書とパート職員の2人になった。図書委員会を年1~2回開催し、管理・運営している。資料は中央管理され、院内各部署の職員が利用できる。現在の図書室の概要を表1に示す。また、大まかな年間の業務は次のとおりである。

表1 図書室の概要 (2011年4月現在)

図書室担当者	司書 1名, パート 1名
図書委員会	医師, 看護師, 薬剤師, 臨床検査技師, 事務, 司書計10名
面 積	168㎡
座 席 数	20席
パソコン	利用者用 2台 (院内LAN接続, 文献検索用)
	図書管理用 1台
蔵書数	
単行書	7,966冊
製本雑誌	17,383冊
現行受入雑誌総数	179誌
(内訳) 洋雑誌 71誌	購入 62誌 寄贈 9誌
和雑誌 108誌	購入 82誌 寄贈 26誌
文献検索用データベース	医学中央雑誌Web版
臨床支援文献情報データベース (院内LANで使用)	メディカルオンライン Up To Date (Web版) ProQuest Medical Library

1) 管理・運營業務

予算管理, 単行書・雑誌の購入・受入・貸出管理, 雑誌の製本, 蔵書点検, データベース導入管理等

2) サービス業務

文献複写相互貸借, 看護部新人転入者オリエンテーション, 臨床研修医図書室ガイダンス, 文献検索講習, データベース講習等

3) 関連業務

『県立がんセンター新潟病院医誌』編集委員会事務局, サポートケア委員会 (患者図書サー

ビス), ボランティア運営部会, 広報委員会 (広報紙・ホームページ), 病院図書室関連団体の諸活動等

図書管理システムはMicrosoft accessを用いたサンメディア社の「司書アシスト」を使用している。資料の登録, 貸出管理, 相互貸借管理等をおこない, 院内に所蔵する書籍と雑誌の書誌データを病院の公式Webサーバにアップロードし, 院内LANおよびインターネット経由で, がんセンターのみならず他の県立病院からも単行書や雑誌特集記事の検索も可能になった。

雑誌は冊子体から電子ジャーナルへ移行しつつあり, インターネットで使用される文献検索データベースを導入している。次々発売されるデータベースは, 日頃から情報を収集し比較検討が必要である。無料で院内全員が使えるトライアルを試行し, 導入後は広報と講習など利用促進を図ってきた。しかし, 全ての職員が理解しているとはいえず, 導入しているデータベースで入手できるにも関わらず, 文献複写を申込まれる場合がある。各部署へ時期を検討してレクチャーをする必要性を感じている。

院内の各委員会への所属は他職種と交流でき, 患者図書サービスのように多くの職種との連携が必要な事業に反映される。患者図書サービスについては後述する。

3 業務統計

予算や受入資料, 貸出数の推移を紹介する。相互貸借については中央図書室の項で紹介する。

1) 図書費

図書室の予算は一般図書費, 中央図書室図書費(中央図書費), がん研究費, 同仁会助成金, 新潟大学実習生費用化等から資料やデータベース, 製本代に充てられる。具体的な金額は控えるが, 2010年の予算使途の割合を円グラフにした。例年同程度の割合で, 洋雑誌は52%と一番多い(図1)。

2) 受入雑誌タイトル数の推移

図書費の増加はなくても洋雑誌代金は毎年値上がりしており, 円高による恩恵に与る時もあるが, 高騰によりタイトル数は減少するばかりである。2001年から2010年までの推移をグラフにした(図2)。

3) 蔵書数の推移

単行書と製本雑誌の数を2001年から2010年までグラフで示す(図3)。2003年には大規模な廃棄をおこなった。1987年に移転する際にも廃棄したが, 16年経過し書庫が満杯になったためである。なお, これは「緊急地域雇用創出特別基金事業」に申込み承認され, 半年間5~6人のスタッフを得ておこなわれた。図書委員会で蔵書期間の見直しをおこない, 製

本雑誌は過去20年保存と定めた。また, この事業で司書アシストへの遡及入力をしてもらい, 完全に電子管理に移行できた。

4) 貸出

単行書と冊子体雑誌の貸出件数を, 2001年から2010年までグラフにした(図4)。2006年に和雑誌を電子化したメディカルオンラインを導入し, 洋雑誌の電子ジャーナルパッケージProQuest Medical Libraryを2010年に導入している。メディカルオンラインは国内文献検索データベース医中誌Webと, ProQuest Medical Libraryはアメリカの医学生物学系文献検索データベースPubMedとそれぞれリンクさせ, 検索と同時に論文を画面上で表示できるようになった。これは院内LANに接続されたパソコンに限られているが, どちらの文献検索データベースとも無料で入手できる電子ジャーナルを表示してくれることもあり, 貸出件数は減少している。しかし, すべての雑誌を電子ジャーナル化している訳ではなく,

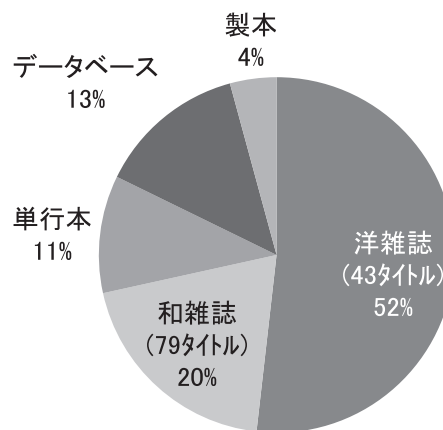


図1 県立がんセンター新潟病院図書室 図書費の割合

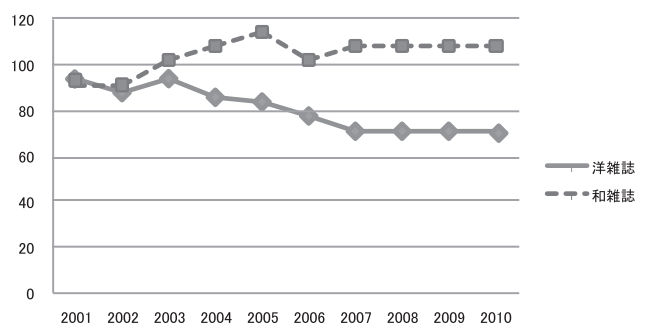


図2 受入雑誌タイトル数

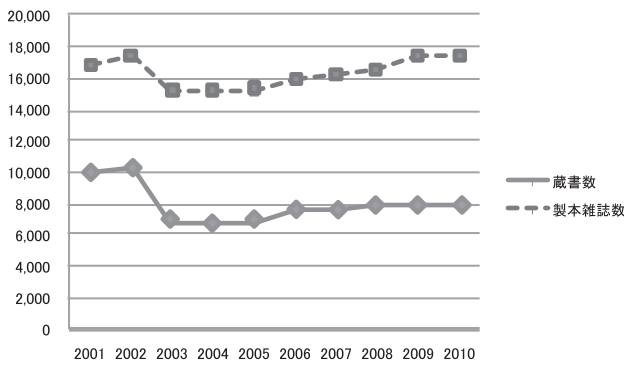


図3 蔵書数

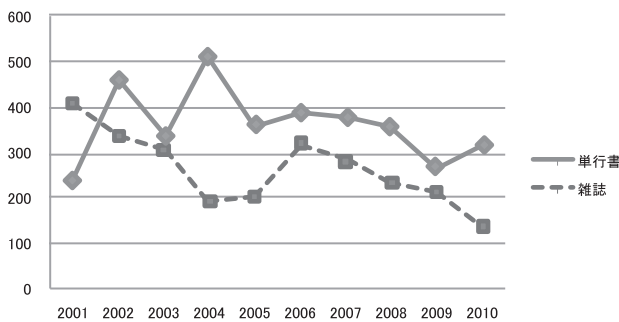


図4 貸出件数

また入室者の具体数は計数していないが、研究時の資料集めやディスカッションなど、利用は多様化し図書室への来室者数が減少しているとはいえない。

5) 利用職種の割合

利用職種の割合を、文献複写申込数、貸出数、データベース・メディカルオンラインのダウンロード数で表示した。期間は年によって大幅な違いはないため2007～2009年のものを紹介する(図5)。文献複写申込は、医師と看護師がほとんどである。メディカルオンラインは臨床研修医、医師、看護師の順で利用されている。貸出は単行書と新着雑誌、製本雑誌で違いがあった。単行書の利用が多いのは臨床研修医である。基礎的な知識や定説の記載がある教科書など、研修医向けの単行書をそろえている。新着雑誌の利用が多いのは看護師である。看護研究時だけでなく日頃から情報収集に余念がない。製本雑誌は複写機での利用が多いが、数は少ないものの借用は医師が一番である。論文作成時の利用のためと推察している。

II 中央図書室

1 設立

中央図書室の成り立ちは、『新潟県立病院医師協議会20年のあゆみ』(1995年刊)に詳述されている¹⁾。初代会長出村光一先生(新発田病院)から「県立病

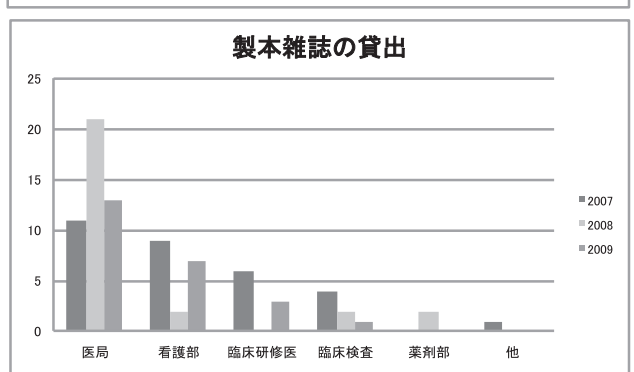
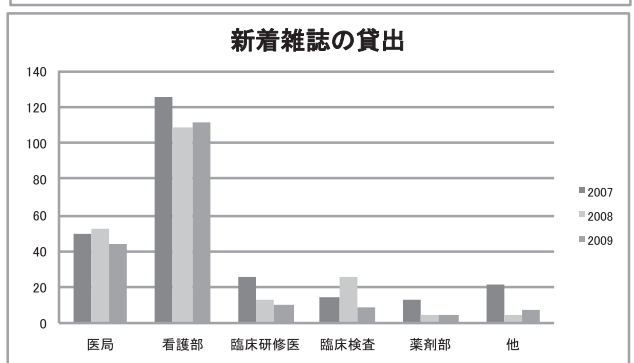
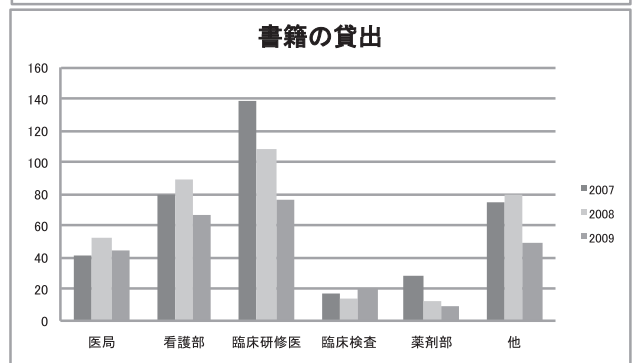
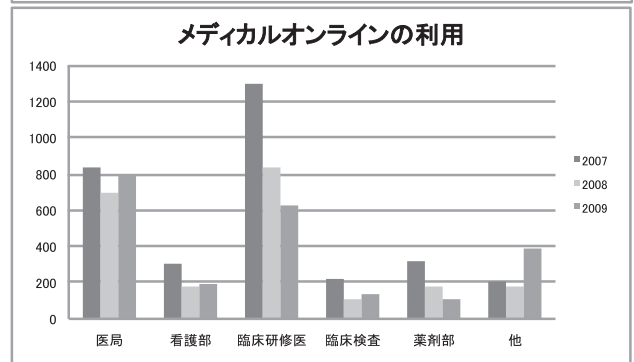
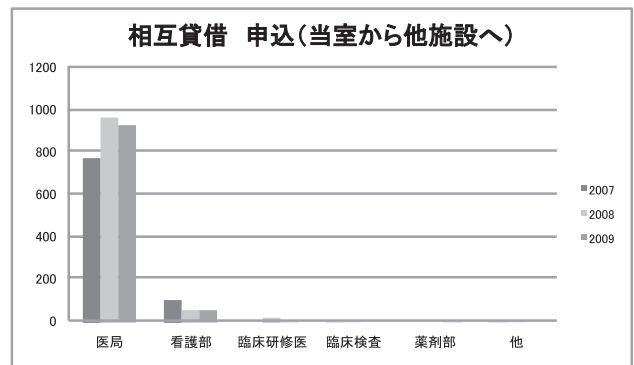


図5 利用職種の割合

院の医師に勉強させたい。限度ある図書費を15病院へ総花的に配分したのでは、年々増大する医療情報の選択・入手に対応できないため、中央図書室の設置により医学図書を充実させる」として医師協議会の意向を病院局に提案、承認を得、昭和51年(1976年)がんセンター新潟病院の図書室に中央図書室として設置されることになった。具体的な開設準備は、新発田病院、吉田病院、加茂病院とがんセンター新潟病院から6名が選出され、全県立病院の各科にアンケートをとり希望調査がおこなわれた。

2 運営

設置場所となった県立がんセンター新潟病院の長が管理者となり、図書委員は準備を担当した6名が引き続き委員として運営を担当した。中央図書費として予算措置され、正職員の司書が配置された。サービス内容は、閲覧・貸出・複写とし、運営要綱や「雑誌コピー・借用申込書」が作成された。現在は病院ホームページのトップページから中央図書室に入るアイコンがあり、Web上から要綱や申込書をダウンロードできる²⁾。

基本的なサービス対象は医師であり、購読資料は洋雑誌中心である。がんセンター新潟病院の雑誌を含めた雑誌目録を作成配布し、初期の頃は単行書の購入と長期貸出や、ビデオフィルムの購入・貸出、目次コピーサービス等もおこなっている。開設から現在までの経緯を表2に示した(表2)。

図書委員会の開催は委員の多忙さや遠方であること等から継続が困難となり、1993年には各病院の医師協議会幹事が兼ねることとなった。

主なサービスは文献複写で、利用者の中心は医師である。室内の資料だけでなく、隣接する新潟大学医歯学図書館、国内の病院や大学図書館から外部取り寄せもおこなう。

3 業務統計

表2のとおり開設当初予算は200万円で、洋雑誌62タイトル、和雑誌8タイトルを購読していた。35年後の2010年では、予算は395万円、雑誌タイトルは洋雑誌21タイトル、和雑誌3タイトルに減少している。予算は増加しているとはいえ、雑誌代の高騰にはとうてい及ばない。

1994年頃これまで製薬会社がおこなってきた文献複写サービスが自粛されたため、中央図書室への文献複写依頼が倍増した。受付けた文献依頼はすべて所蔵している雑誌とは限らず、当然他施設への申込みも倍増することになった。これは国内ほとんどの病院が同様の状況であった。

文献相互貸借の2001年から2010年までの推移を図6に示す。受付件数を図7に全県立病院とそれ以外の

病院からを区別してグラフにした。圧倒的に県立病院からの依頼が多い。図8は他施設への申込件数である。依頼先を新潟大学医歯学図書館とその他に区別してグラフにした。新潟大学医歯学図書館への依頼が約半数を占めている。この場を借りて日頃のお礼を申し上げたい。

パソコンやCD/DVDの普及により、視聴覚資料16ミリフィルムの役目は終了した。1997年にはPubMedとしてMedlineが無料で使えるようになり、自身での検索が増え文献検索代行も減少した。インターネット、電子ジャーナルの普及で雑誌の目次サービスは終了した。目次だけなら購読していない雑誌も自分のパソコンで表示可能になったためである。

III 患者図書サービス

1 設立と運営

小説や漫画、写真集等の娯楽書の貸出サービスとおして、少しでも潤いある入院生活を送れよう「あかね文庫」の活動が開始されたのは1994年である³⁾。これは、司書が医師の勧めにより応募した福祉事業で助成金を得ることができ、本やブックトラックをそろえ、ボランティアの協力を得て、毎週木曜午後4時棟へのベッドサイド貸出サービス、デイルームでの本棚整備から始まった。院内職員や患者・家族の方々からも協力を得て、本棚や資料の提供をいただきながら現在も運営を継続している⁴⁾。1996年には小児科病棟でのお話ボランティアも水曜午後開始され、プレイルームやベッドサイドで絵本やお話を子ども達楽しんでる。利用した方々からは入院中ボランティアさんの笑顔や本に慰められたと、声かけや手紙をいただくことがある。

1997年に開始された「からだのとしょかん」は患者さんからの要望で設置された⁵⁾。「わかりやすい医学書をおいて欲しい」「退院後の指導書が欲しい」など娯楽書だけでなく、医学書の希望があったためである。2医師からの資金援助を得てわかりやすい医学関連書を収集し、対応に「新潟ホスピスボランティアの会」の協力を得て開設された。がんの告知やインフォームド・コンセントが盛んに論議された頃であり、時代の要請ともいえる。自分の病気を正しく理解し、納得した治療を受けること、そして医療者とのよりよい信頼関係を築くことを目的としている。利用の際は特定の資料や治療法を勧めているものではなく、記載された内容は疑問への回答の一部分であること、医療者との話合いの材料としてほしいという主旨の注意書を手渡している。現在はサポートケア委員会のもと、相談支援センターや「からだのとしょかんボランティア連携委員会」と密接に連携して運営されている。当初は会議室に棚を運

表2 中央図書室の概要

中央図書室の成り立ち： 医師協議会初代会長 出村光一先生「限度ある図書費を15病院へ総花的に配分したのでは、年々増大する医療情報の選択、入手に対応できないため、中央図書室の設置により医学図書を充実させるもの」として医師協議会の意向を病院局に理解してもらい、県立がんセンター新潟病院内の図書室に中央図書室として設置された。

No.	年度	西暦	図書予算(円)	決算(円)	洋雑誌購読数	和雑誌購読数	サービス内容や背景	文献複写受付(県立病院)	文献複写受付(県立病院以外)	文献複写受付合計	他施設への申込み数	新潟大学への申込み数	他施設への依頼合計	視聴覚資料買出本数	文献検索代行	来室利用人数	年度	西暦	No.	
1	51	1976	2,000,000		62	8	司書配置、文献複写サービス、目次データベース開始。(図書委員会委員は、がんセンター、新奈田病院、吉田病院1、中央病院から計6人)運営委員・文献複写申込書・雑誌目録等の作成と配布	88	記録なし	88							51	1976	1	
2	52	1977	2,500,000		62	8	複写申込書・雑誌目録等の作成と配布	143		143							52	1977	2	
3	53	1978	3,000,000		62	8	単行本の購入(希望募集し、購入、希望病院への差附費出)	121		121							53	1978	3	
4	54	1979	3,000,000		62	8	16ミリフィルムの購入、貸出開始	103		103				2			54	1979	4	
5	55	1980	3,000,000		62	8		362		362				29			55	1980	5	
6	56	1981	3,000,000		62	8		414		414				36	18		56	1981	6	
7	57	1982	3,000,000		62	8		915		915				28	15		57	1982	7	
8	58	1983	3,000,000		62	8		835		835				11	2		58	1983	8	
9	59	1984	3,200,000	3,197,540	62	8	ビデオフィルムの購入・貸出開始	706		706				18	1		59	1984	9	
10	60	1985	3,200,000	3,203,260	62	8		401		401				1	8		60	1985	10	
11	61	1986	3,200,000		62	8		510		510				0	1		61	1986	11	
12	62	1987	3,200,000	3,200,000	62	8	がんセンター移転	345		345				45	6		62	1987	12	
13	63	1988	3,200,000	3,183,500	62	8		360		360			297	24	7		63	1988	13	
14	1	1989	3,300,000	3,268,696	62	8		353		353			347	63	5		1	1989	14	
15	2	1990	3,300,000	3,263,159	62	8		325		325			246	56	2		2	1990	15	
16	3	1991	3,300,000	3,225,851	62	8	予算不足で、雑誌・製本以外は購入中止	308		308			287	73	9		3	1991	16	
17	4	1992	3,300,000	3,377,381	62	8	図書委員会委員は、医師協議会幹事が兼ねることになった(99～)、製薬会社の文献複写サービス自粛により、受付件数急増(94～)	427		427			461	49	27	6	4	1992	17	
18	5	1993	3,300,000	3,577,747	62	8	製薬会社の文献複写サービス自粛により、受付件数急増(94～)	759		759			834	51	91	8	5	1993	18	
19	6	1994	3,300,000	3,262,550	62	8	局に文献検索CD-ROM購入の要求と、各病院に図書室担当者の配置を要求	976	134	1,110			1153	40	62	7	6	1994	19	
20	7	1995	3,300,000	3,242,825	62	8	PubMed 開始(Medlineの無料化)97-	814	138	952			844	36	60	38	7	1995	20	
21	8	1996	3,300,000	3,282,167	62	8	局から予算削減指示	704	132	836			740	38	52	28	8	1996	21	
22	9	1997	3,300,000	3,461,625	62	8	雑誌代高騰により20誌中止、図書管理「可書システム」導入	1,047	205	1,252			1118	12	32	40	9	1997	22	
23	10	1998	3,135,000	4,066,252	62	8	雑誌代高騰により14誌中止、雑誌の製本中止	1,065	336	1,401			988	13	20	32	10	1998	23	
24	11	1999	3,135,000	3,724,948	44	6	和雑誌特集記事の配布	1,085	148	1,233			931	0	20	61	11	1999	24	
25	12	2000	3,135,000	3,517,075	44	6	医師協議会の働きかけで予算アップ。 医中誌Web導入	1,096	137	1,233			1092	0	19	31	12	2000	25	
26	13	2001	3,500,000	3,500,501	44	6	雑誌代高騰により、14誌中止、雑誌の製本中止	1,386	203	1,589			1458	0	18	22	13	2001	26	
27	14	2002	3,500,000	3,986,968	44	6	雑誌代高騰により、14誌中止、雑誌の製本中止	1,131	185	1,316			1294	0	10	21	14	2002	27	
28	15	2003	3,952,000	3,958,720	33	3	目次データベース中止*、3誌中止	967	184	1,151			1296	0	7	18	15	2003	28	
29	16	2004	3,952,000	3,961,222	33	3	雑誌中止/ パート職員配置(13:00-15:45)	1,105	175	1,280			1296	0	8	21	16	2004	29	
30	17	2005	3,952,000	3,962,014	30	3	雑誌中止	731	234	965			850	0	4	17	17	2005	30	
31	18	2006	3,952,000	3,945,609	28	3	雑誌中止	690	296	986			869	0	4	14	18	2006	31	
32	19	2007	3,952,000	3,952,000	23	3	雑誌中止	641	379	1,020			878	0	**	4	11	19	2007	32
33	20	2008	3,952,000	3,958,192	22	3	雑誌代高騰により、電子ジャーナル導入(Onlineのみ4誌、Online+Print 9誌、Printのみ10誌(2009年分))	755	350	1,105			1025	0	2	5	20	2008	33	
34	21	2009	3,952,000	3,952,164	21	3	外国雑誌の支払い方法変更により、差額で2003-2008年分製本	965	296	1,261			993	0	2	9	21	2009	34	
35	22	2010	3,952,000	4,004,199	21	3	誌オフラインのため、中止。	803	218	1,021			925	0	3	6	22	2010	35	

* インターネットの普及により、Web上で目次閲覧が可能になったため医師協議会の了承を得て目次データベースを中止。
** PubMedの無料公開により、文献検索が自由に行えるようになったため、文献検索代行は減少

び午後2時間の開館だったが、1999年から外来棟に常設となり、月～金曜日10時～15時（木曜午前除く）で開室している⁶⁾。

2 業務統計

2001年から2010年までの利用者数と貸出冊数の推移を図9に示す。あかね文庫の初年度1994年の利用者数は3,156人、貸出冊数は5,930冊であった³⁾。2010年では11,161人 3,822冊である。貸出は一枚ものの貸出票に記入して箱に入れることになっている

が、セルフサービスのため全て記入しているかどうかは不明である。本棚も増加し、常設のからだのとしょかんにもあかね文庫の娯楽書がおいてあり、利用人数は3.5倍になった。

からだのとしょかんの初年度1997年の利用者数は911人、貸出冊数は497冊であった⁵⁾。2010年では5,446人、749冊である。常設となり開館時間も延びており、利用人数は6倍弱、貸出冊数は1.5倍となった。

おわりに

当院における図書室のあゆみを紹介した。当室の役目は、院内の職員だけでなく全県立病院の中央図書室として、医学・医療情報を提供し診療支援・研究支援をすることにある。また、患者・家族に対しても娯楽書と同時にわかりやすい医学・医療情報を提供し、病気と関わることになった方々に寄り添い、支援することにある。これら全ては、多くの方々のご指導ご協力を得て継続ができています。深く感謝申し上げます。これからも進歩する医学・医療情報を見極め、提供できるよう努めます。

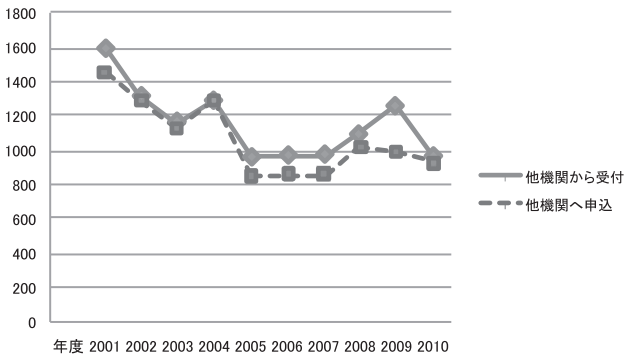


図6 相互貸借

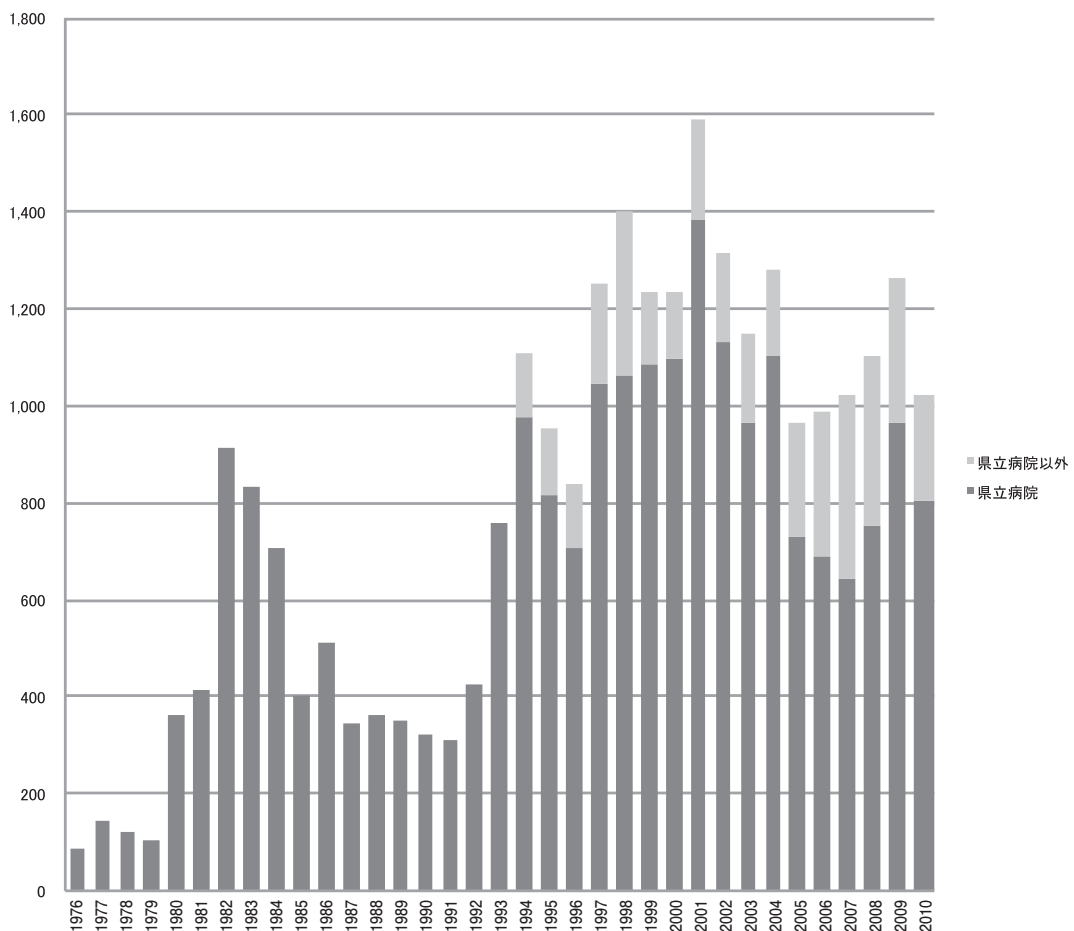


図7 県立病院とそれ以外からの相互貸借 受付件数

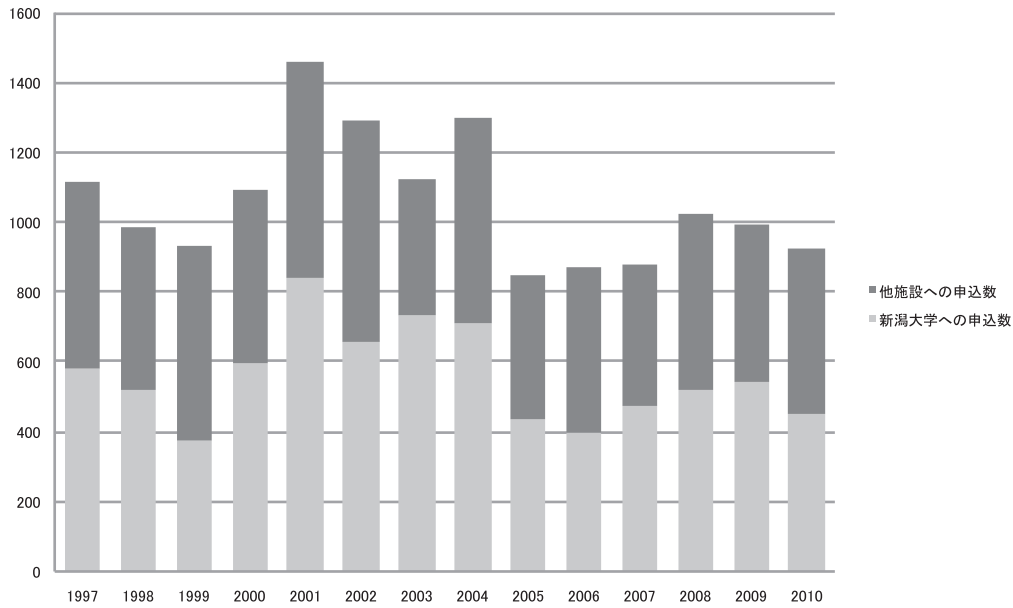


図8 申込先別相互貸借件数

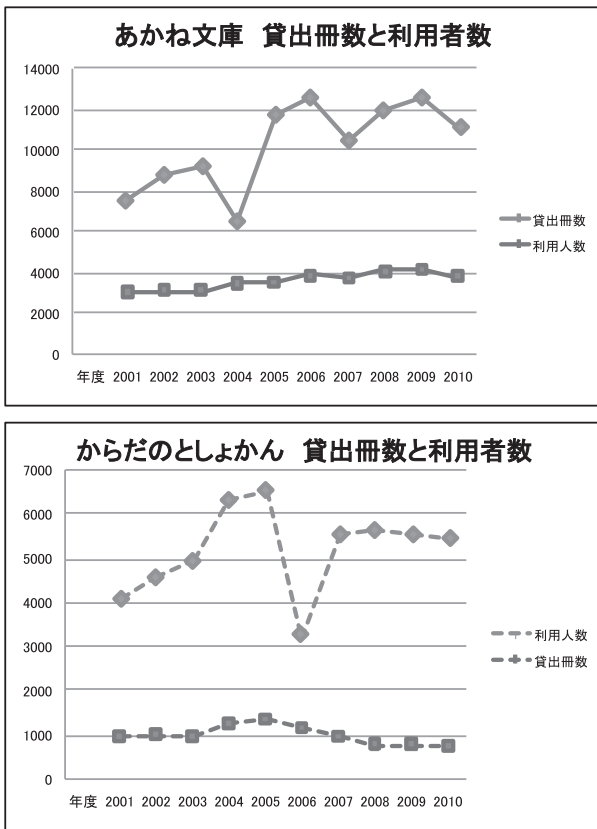


図9 患者図書サービス

参考文献

- 1) 内海治郎:新潟県立病院中央図書室の発足と運営—そして将来のあり方について. 新潟県立病院医師協議会20年のあゆみ, pp39-43. 新潟県立病院医師協議会, 1995.
- 2) 中央図書室. <http://www.niigata-cc.jp/contents/facilities/chuou.html> [引用2011-7-18]
- 3) 有田由美子.患者図書サービス「あかね文庫」活動報告 病院図書室司書の立場から. 県立がんセンター新潟病院医誌. 35(1):63-73.1996.
- 4) あかね文庫. <http://www.niigata-cc.jp/contents/facilities/akane.html> [引用2011-7-18]
- 5) 藤沢直子.患者へのわかりやすい医療情報の提供—からだのとしょかん活動報告—. 県立がんセンター新潟病院医誌. 37(2):89-94.1998.
- 6) からだのとしょかん. <http://www.niigata-cc.jp/contents/facilities/tosyo.html> [引用2011-7-18]